

情勢報告（令和元年10月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

県内ユズ産地の先進事例を学ぼう！ ～北川村視察研修を開催～



他産地の生産者と交流

9月24日、JA高知県無農薬柚子部会生産者、JA高知県職員、普及所職員計22人が北川村の篤農家の園地を視察研修し、生育状況、栽培方法を確認しました。普及所からは、樹間、樹形について嶺北地域との違いを説明し、地域の気候、用途（青果用、加工用）に応じた栽培管理の重要性について情報提供しました。

北川村役場では、「ユズの樹園地整備事業」「移住促進のための支援策」等について役場職員から説明を受けました。生産者からは「新・改植後の未収益期間はどのようにして生計を立てるのか」「鳥獣害対策は何に重点を置いているか」等の質問が出されました。

今後、普及所では関係機関と連携し、放棄田の活用及び担い手への園地の集積に向けて、農地中間管理機構関連事業の導入を検討します。

高知県GAP第三者確認制度 ～現地調査実施～



現地ほ場での調査の様子

JA高知県れいほく園芸部ではオリンピック・パラリンピックへの食材提供を目指し、9月25日に生産者9人のほ場、JA集出荷場と事務局で高知県GAP調査員による第三者確認を受けました。

各生産者は農薬の使用・保管方法や、燃料の保管などについて調査員から指導を受け、改善に取り組みました。生産者からは「今後はより一層GAPに力を入れ、腐敗事故防止などを部会全体で取り組みたい」という前向きな意見が聞かれました。

今後、普及所はJAと連携して生産者のGAPの取組が向上するよう、支援していきます。

嶺北地域シキミ・サカキ部会 ～生産拡大に向けて関係機関の連携～



挿し木後約10か月のシキミ苗

9月27日、シキミ・サカキについて嶺北地域での現状や課題を共有し、今後の取組について意見交換するシキミ・サカキ部会が、林業事務所で開催されました。普及所からは、大苗を利用した挿し木方法について情報提供しました。

優良系統の増殖には挿し木が有効で、従来の小さな挿し穂の利用では、育苗期間が長くかかっていましたが、大苗では、収穫までの期間を短縮できます。

今後も普及所は関係機関とともにシキミ・サカキの生産拡大を支援していきます。

中山間地域の農業法人の経営改善 ～カイゼン方式導入による労働生産性の向上～



カイゼン・マイスターによる
現地指導

10月9日に大川村にある（農）山中農園において、カイゼンの研修会が開催され、普及所職員を含む15人が参加しました。

山中農園は、オリエンタルユリを主体に花き類を周年出荷している農業法人ですが、昨年度から普及所の提案をもとに出荷調製作業場のレイアウト改善に取り組んでいます。

今回、初めて現地でカイゼン・マイスターによる診断を受け、その結果、調製時に花を入れる容器の工夫、運搬回数や歩数を減らす工夫、作業標準書の作成など、多くの指導がありました。

山中代表や従業員は、作業台の位置や選別用の桶の配置を変えるなど早速実践していました。

今回の診断結果をもとに、更なる改善が図られるよう支援していきます。

郷土の味を伝えよう！ ～おおとよ小学校郷土料理伝承講習会～



食材を切る子供たち

10月10日、大豊地区農漁村女性グループ研究会の4人と普及所がおおとよ小学校の調理室で郷土料理伝承講習会を開催し、5年生12人、教員1人が参加しました。

銀ブロウ寿司、こんちん、ぜんまいの油炒め、みょうがだんご、パプリカのマリネ、りゅうきゅうの味噌汁を児童と一緒に調理し、試食しました。

児童からは「家で作ってみたい」「だんごはおばあちゃんの味と同じ」などの感想がありました。

普及所は、郷土料理が受け継がれるよう支援していきます。

ミニトマトで環境制御装置を導入だ！ ～省力化と増収に向けて～



熱心に説明を聞く生産者ら

10月15日、大豊町でミニトマト生産者を対象に現地検討会を開催し、生産者5人が参加しました。

普及所は新品種‘サンチェリーピュアプラス’の品種特性と栽培管理、さらに省力化、増収の見込める環境制御装置とその導入事業について説明しました。生産者からは事業の内容についての質問が多く出され、導入に向けて意欲的でした。

今後も普及所は、省力化や増収に向けて支援していきます。

ユズの選果作業の軽減を！ ～生産者個人用専果機を視察研修～



個人用選果機での作業風景

10月18日、大豊町大砂子柚子生産組合の生産者、役場、JA、普及所の計17人は香美市物部町を視察しました。

ユズの青果生産では、収穫して果実を選別する粗選果作業が大きな負担となっています。そこで、普及所では先進地で導入されている個人用選果機の視察研修を計画しました。

視察先では、選果機によるユズの粗選果作業を確認し、「以前は6人で作業しても翌日までかかったが、今は夫婦で2～3時間程度」と説明を受けました。参加者は導入費用や選別の精度を確認していました。

今後、普及所では選果機も含めた省力機器の導入実現に向けて、支援していきます。